

## 10月17日 現地研究会（白石農園）報告

今年の現地研究会は、10月17日（土）練馬区大泉の白石農園を訪問しました。参加者は大人14人と幼児1名。10時から体験農園利用者の講習会（大泉風のがっこう）の様子を見学し、11時から12時過ぎまで農園主の白石好孝さんのお話と意見交換会を行ないました。あいにく雨模様のはっきりしない天気でしたが、「風のがっこう」には60人近くの利用者が参加し、農研の研究会も活発な意見交換がおこなわれ、有意義な時間を過ごすことができました。

白石農園は経営面積140アール（内ハウス10アール）で、その内60アールが体験農園、野菜生産が60アール、ブルーベリー摘み取り園20アールとなっています。体験農園は現在137組の利用者で、一人あたり30㎡の区画が割り当てられ、利用料金は年間44,000円です。年間の野菜購入料金を考えると十分元が取れる値段のようです。5年間で卒業というシステムをとっており、常に新規の利用者が参加できるようになっています。練馬区報を通じて利用者を募集し、競争率は3倍弱とのこと。

野菜生産は約100種類を扱っており、庭先販売、併設レストラン（La毛利）、すぐ隣のコンビニ、JA直売場、学校給食4校などが主な出荷先です。白石さんの話では、都市農業は様々な野菜や果樹を育てることが多いので、農村における農家以上に農業生産の経験、知識が豊富ではないかなということでした。都市農業で生計を立てるには、10アールあたり100万円の収入が目安で、生産費などを差し引いても十分農業としてやっていけるそうです。経営は家族3人に加えて、精神障害者社会適応事業による障害者訓練として3名の社会復帰訓練利用者と1名のサポートメンバーで行われています。

体験農園の利用者のほとんどは趣味として参加していますが、利用料金を確実に支払ってくれるだけでなく、地域と農業をつなぐ都市農業の担い手としての役割を担っているといえます。単なる緑地空間保全だけでなく、都市における地産地消、地域コミュニティの場として、都市農業は重要な役割を担っているという感想を持ちました。

昼食はLa毛利でフランス料理をいただきました。La毛利は、中野区出身の毛利彰伸さんが経営するフランス料理レストランです。毛利さんは都内最初の農園レストランオーナーシェフとして、素材を活かした料理に定評があり、2000年5月に、白石さんの農園仲間でもある西武池袋線保谷駅近くの加藤義松さんの農園（日本で初めてのカルチャーセンター方式の区民農園）のキッチンスペースを借りて「L



①風のがっこう野外講習会の様子



②農研意見交換会



③La毛利で昼食会

a 毛利」をオープンし、2007年8月に現在の白石農園隣に移転しました。白石農園の採れたて野菜をベースに、シェフこだわりの食材を日本中から取り寄せたフランス料理がいただけます。大変人気で、事前に予約しておかないとなかなか席が取れないようです。

### 都市農業振興基本法

議員立法として本年4月22日に施行された。基本理念として「①都市農業の多様な機能の適切かつ十分な発揮と都市農地の有効な活用及び適正な保全が図られるべきこと②良好な市街地形成における農との共存が図られるべきこと③国民の理解の下に施策が推進されるべきこと」を明らかにするとともに、政府に対し、必要な法制上、財政上、税制上、金融上の措置を講じるよう求めている。市街化区域の農業に一步踏み込んだ法律として一步前進ではあるが、都市農業基本法ではなく、都市農業振興基本法であることにみられるように、農政の積極的関わりがまだ薄い感拭えない。今後関連法律、制度が整備されていく中で、都市農業の積極的展開が望まれる。

(※現地研究会の詳しい内容については、137号「耕」に掲載予定です)

## 現代の老農を訪ねる

### はじめに

「普通の国」へと軍事体制(解釈改憲・集団的自衛権)を強化し、「開かれた国」へと弱肉強食の経済運営(市場至上主義・TPP)を選択し、食料自給率40%にも満たず低迷を続けている我が国農業を国の「成長産業」だと喧伝、「強い農業」(大規模企業化)と「攻め農業」(輸出産業化)だと財・官主導の食料・農業・農村政策が推進されている。そこにはこの国の風土や文化、人々の暮らし方への配慮は全く感じられない。

近代農学の成立期である明治時代、官主導の輸入農学に対し民間の農事改良の担い手として「老農」と呼ばれる農民たちが活躍した。それは在来農学の蓄積に基づき単なる個人の経験の寄せ集めという段階を超えた実証主義的技術改良、農法の創造、むらづくりにまで及んだ。

農業・農村の先覚者、産地形成・むらづくりの先進地域は、多くの表彰事業で評価し、現代の「老農」、社会のパイオニアとして位置付けてきた。山崎農業記念賞も今年で39回目を数える。

国益のために国柄まで変わりつつある現状で、現代の老農たちは何を考えどう行動しているか。小さな旅に出かけることにした。

### 斎藤牧場・時代は変わった

斎藤牧場(旭川)斎藤晶さんは、山崎記念農業賞第24回(1998)で表彰、東京までお出で頂きお話を伺いました。今から18年前である。このときも現地調査でお伺いし、その生い立ちから今日までの人生観、酪農に生きる哲学は、晩酌を酌み交わす夜半まで続いた。それは日本酪農、北海道酪農のもう1つの在り方として深く感銘し、4年後再びお伺いした。その結果は、現代老農物語(1)「自然と牛と人との共存・斎藤式蹄耕法--斎藤晶さんの平成への夢」として「土壌と圃場」(日本土壌協会、2002/12)に掲載した。

それから15年近くが経つ。笑顔での穏やかな語り口、慈しみあふれる自然観そして自信に満ちた酪農道、今は経営を子供に渡し、悠々自適、さらなる夢を期待して訪れた。

斎藤昌さんは、すでに縁居の身。87歳というが、杖を頼りに毎日展望がきく牧場の上に立つという。その日々の自然の移り変わりは、何事にも変えられない喜びだと眼を細める。「現代老農物語」で語ってくれた夢の幾つかを尋ねてみた。半生をかけた理想の牧場は5~6年あれば再現できる。見学者が多いが他の実践例が少ない。新しく求めた60haの第二牧場は、その思想実現の実験牧場とするとしたが果たせなかったという。都市住民、医療、宗教など他の分野との共生を求めた農家カフェ、知的障害者研修施設、教会、山地酪農研修所は、その役割を果たせず遊休または廃墟となっていた。晶翁は「時

代の流れだ」とさびしく語る。「どうにもならない」と続く。そこには齋藤式蹄耕法を語った面影は全くない。「こんな素晴らしい風景も牛たちとの関わりも少しも変わっていない。そのことにあれほど多くの人たちが気づいてくれたのに・・・」。単行本になった。記録映像もある。何よりもたくさんの方が訪ねてくれた。「ただ、あの一時代を記録しただけ」。何に敗れたのか。大きな宿題を抱え込むことになった。

困窮の中、理念（哲学）で築いた開拓1代、それを基盤に今を生きる牧場主・拓美氏は、開拓2代目の役割は、開拓1代目の理念をしっかりと消費者に結び付ける新たなマーケティングの開拓だとはいう。北海道乳＝北連＝加工乳の路線から離れ、独自のブランドで生乳、チーズ・バター加工、アイスクリーム素材加工へと経営の主眼を傾斜している。そして市場開拓は、牧場の理念に賛同する情報や販売のプロの力を借りているという。息子は、酪農大学2年生、また、開拓3代の新しい展開を期待しよう。

※次号：北海道苫前町 有限会社「無限樹」大川博文さん (小泉浩郎)

## 手づくり百人協同組合の活動 ―世田谷区民ふるさと祭り―

第39回山崎記念農業賞を受賞した新潟県上越市の「手づくり百人協同組合」が世田谷区民ふるさと祭りに“出店”するという連絡があり、8月1日に出かけました。会場の馬事公苑（世田谷区上用賀 2-1）までは、渋谷駅前からバスが出ているとの情報を得たので、バスにて会場にいったが、会場近くでは交通渋滞が発生していて到着までに渋谷から約40分かかってしまいました。

世田谷ふるさと区民祭りは、今年で第38回を迎え、当日は天候に恵まれすぎて、ものすごく暑い日（35℃以上）でしたが、全国各地からの出店は街路樹のある一角での展示販売であったので、少しは暑さをしのぐことができました。④

しかし、馬事公苑内には大きな樹木がなく、日蔭となるものがない状態だったためか、ここに出店して東日本震災復興支援物産展を行っている東北3県の展示販売前は人もまばらで、気の毒に思えるほどです。⑤

手づくり百人協同組合の事務局長の増野秀樹さんとメンバー3名が出店で農産物（夏野菜）や加工品の販売を行っていました。事務局長との話のできたので、販売状況を尋ねたところ、儲けはわずかで、赤字になることもあるとのことでした。（益永八尋）



④ 全国の物産展がある街路樹の一角

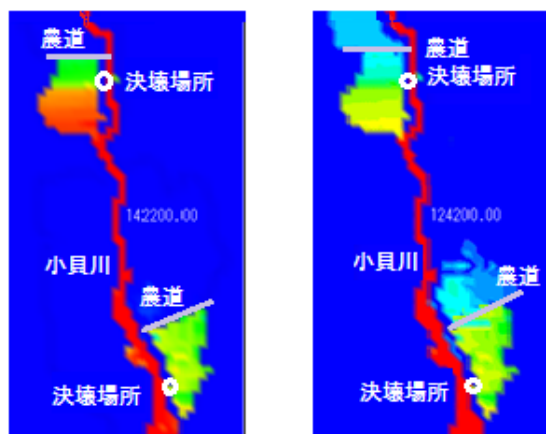


⑤ 全国の物産展がある街路樹の一角

## 鬼怒川決壊に思う ―農業基盤整備と治水事業の一体的整備を―

鬼怒川やその隣を流れる小貝川は氾濫の常襲区域です。氾濫の度に技術者仲間で話題になるのが水田の洪水調節機能ですが、氾濫には内水氾濫と外水氾濫があり、それぞれ水田の洪水調節機能の発揮の仕方が大きく異なります。今回は河川堤防決壊によるものなので外水氾濫と言われるものです。内水氾濫の場合、水田の畦畔を高くしたり、氾濫時に調整池となるような水田を圃場整備で造成しておくことで、

ある程度氾濫被害を軽減することが可能です。しかし、鬼怒川水系の水田の多くは、機械化農業に対応するために畦畔の高さが5cm程度しかなく、圃場整備のあり方として今後大きな検討課題になると思います。一方、外水氾濫の場合は畦畔の高さは関係しなくなります。小貝川を対象に、堤防決壊による氾濫シミュレーションを行った結果では、耕作道路や農道の配置や路盤高さ、遊水地の有無などが氾濫被害に大きく関係する結果が得られています。氾濫を許容する区域をあらかじめ設定し、氾濫区域を拡大させないという前提があるので、低位部の住宅地などの移転が必要となりますが、これまで農業基盤整備は内水氾濫については考慮されてきましたが、外水氾濫は治水側の責任ということで検討の対象外に置かれてきました。これからは治水事業と一体化した圃場整備や土地利用計画のあり方を検討する段階にあるのではないかと思います。(渡邊 博)



計画農道; 圃場+5.0m 現況農道; 圃場+1.0m

⑥農道を二線堤とした時の氾濫区域

お知らせ

12月12日(土) 定例研究会の案内

日時 12月12日(土) 11:15~17:00 (18:00~20:00 忘年会を兼ねて懇親会)  
 場所 高松農園・女化町区民会館; 茨城県牛久市女化町  
 テーマ 農地土壌資源の管理・保全(仮題)  
 講師 高松 求(牛久市 農家)、小松崎将一(茨城大学農学部 教授)、  
 成澤 才彦(茨城大学農学部 教授)

第11回北里大学農医連携シンポジウム

食と健康のつながり ~生命を支える食のはたらき~

11月29日(日) 13:00~16:50 北里大学白金キャンパス薬学部1号館2階 1202講義室  
 「壺作り米黒酢摂取の健康増進効果」叶内宏明(鹿児島大学共同重医学部准教授)  
 「体内時計からみた食と健康」大石勝隆(産業技術総合研究所生物時計研究グループ長)  
 「コラーゲン整合性における翻訳後修飾とその分子機構」加来賢(新潟大学大学院准教授)  
 「東洋医学における食と養生」小林義典(北里大学薬学部教授)  
 参加申込; 下記メールに氏名、所属、連絡先を書き添えて11月20日までに申込みしてください  
 E-mail: noui@kitasato-u.a.jp

国際有機農業映画祭のおしらせ 申込先 Web ([www.yuki-eiga.com](http://www.yuki-eiga.com))

国際有機農業映画祭運営委員会

又は FAX 03-5155-4767

2015年12月20日(日) 武蔵大学 江古田キャンパス1号館B1 1002シアター教室  
 一般 前売り1500円/当日2000円 25歳以下前売り500円/当日1000円 身分証明書必要  
 上映 10:00「種をつぐ人びと」(アメリカ) 11:30「偽善の米」(フィリピン) 11:50トーク  
 12:05~12:50 休憩 13:10「都市を耕す」(アメリカ) 14:25「農薬禍」(日本)  
 15:50「草とり草子」(日本) 17:30「アラヤシキの住人たち」(日本) 19:30閉会

お願い

「ニュース」はできるだけ迅速にお知らせしたいので、未だ事務局に e-mail アドレスをお知らせでない方(紙ベースでこのニュースが届いた方)は、下記までメールアドレスをご連絡ください。

〒164-8721 東京都中野区本町一丁目 32-2 ハーモニータワー20階 NTC コンサルタンツ(株)

開発事業部 益永八尋 E-mail [y.masunaga@ntc-c.co.jp](mailto:y.masunaga@ntc-c.co.jp)